

TDSE、オンプレミス型 AI エージェント基盤

「TDSE_AI FORGE」の提供を本格開始

オンプレミス環境で、LLM・Dify・安全性制御を統合し、業務特化 AI の実装基盤を提供

TDSE 株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長：東垣直樹、証券コード：7046）は、企業が自社環境内で AI エージェントを安全に構築・運用できるオンプレミス型 AI エージェント基盤「TDSE_AI FORGE」の本格提供を開始いたしました。

生成 AI・エージェントの業務活用が広がる一方で、機密情報や個人情報を扱う企業では、外部クラウド環境へのデータ送信や AI の応答制御に対する慎重な対応が求められています。こうした背景を踏まえ、「TDSE_AI FORGE」では、企業が自社環境内で AI エージェントを構築・実行するための実装基盤として、LLM、Dify、安全性制御の仕組みを統合して提供します。その中核となる AI 基盤として、「NVIDIA DGX Spark」または互換機を採用してまいります。「NVIDIA DGX Spark」は、NVIDIA Grace Blackwell アーキテクチャと大容量メモリを備えたコンパクトなデスクトップ型 AI 基盤であり、ローカル環境での AI エージェント開発、モデル検証、推論環境の構築に適しています。「TDSE_AI FORGE」では、この計算基盤に、ノーコード／ローコードで生成 AI アプリ・AI エージェントを構築できる「Dify」、業務特化型の OSS LLM、AI の入出力を制御し、情報漏洩や不適切な応答などのリスク低減を図る「NVIDIA NeMo Guardrails」等を組み合わせて提供します。

「TDSE_AI FORGE」は、当社が新中期経営計画「SHIFT2028」で掲げる生成 AI・エージェント領域への取り組みを具現化するオンプレミス型 AI 基盤です。当社は「Dify」の公式販売・開発パートナーとして培った知見と、AI・データサイエンス領域の技術力を活かし、企業が自社環境内で生成 AI を実業務に活用するための環境整備を支援してまいります。

1、「TDSE_AI FORGE」の特長

(1) オンプレミス環境で、機密情報を外部に出さずに AI 活用を推進

AI エージェントの構築・実行、セキュリティ制御、LLM 推論に必要な環境を社内閉域環境に構成できます。機密データ、個人情報、研究開発データ、知的財産などを社外に出さずに扱えるため、クラウド利用に慎重な企業でも、生成 AI 活用に必要な環境を社内で整備しやすくなります。また、買い切り型のオンプレミス基盤として導入できるため、クラウド型 LLM サービスのような利用量に応じた従量課金を気にすることなく、社内で日常的かつ継続的に生成 AI を活用できます。

今後、LLM やそれを活用した AI エージェントは企業の業務活動において重要な役割を担うことが期待されています。一方で、OpenAI などのクラウド型 LLM に依存した運用では外部要因による利用制限やサービス停止のリスクが存在し、業務継続に影響を及ぼす可能性があります。こうしたリスクを回避し安定した運用環境を確保するためには、自社で管理・運用が可能

なローカル LLM の導入が重要となります。

(2) Dify 等を組み合わせ、業務特化 AI を実装できる基盤構成

「TDSE_AI FORGE」は、生成 AI プラットフォーム「Dify」を中核に、業務用途に応じた OSS LLM や安全性制御の仕組みを組み合わせることで、社内環境における業務特化 AI の実装を可能にします。当社は国内初の「Dify」公式販売・開発パートナーとしての知見を活かし、本基盤を通じて、企業の生成 AI 活用環境の整備・展開を推進してまいります。

(3) 安全性制御と拡張性を備えた AI 基盤を提供

AI の入出力や利用範囲を制御する仕組みとして「NVIDIA NeMo Guardrails」等を活用し、トピック制御、RAG グラウンディング、ジェイルブレイク対策などを組み合わせることで、AI エージェントの安全な業務利用に必要な制御環境を構成できます。また、「TDSE AI FORGE」を基盤に、Dify、LLM、安全性制御、業務実装などの周辺ソリューションを組み合わせることで、部門単位での導入から全社展開まで、企業の AI エージェント導入を支援します。

■ 「TDSE_AI Forge」公式サービスサイトはこちら

<https://www.tdse.jp/service/llm/ai-forge/>

2、構成されるサービス

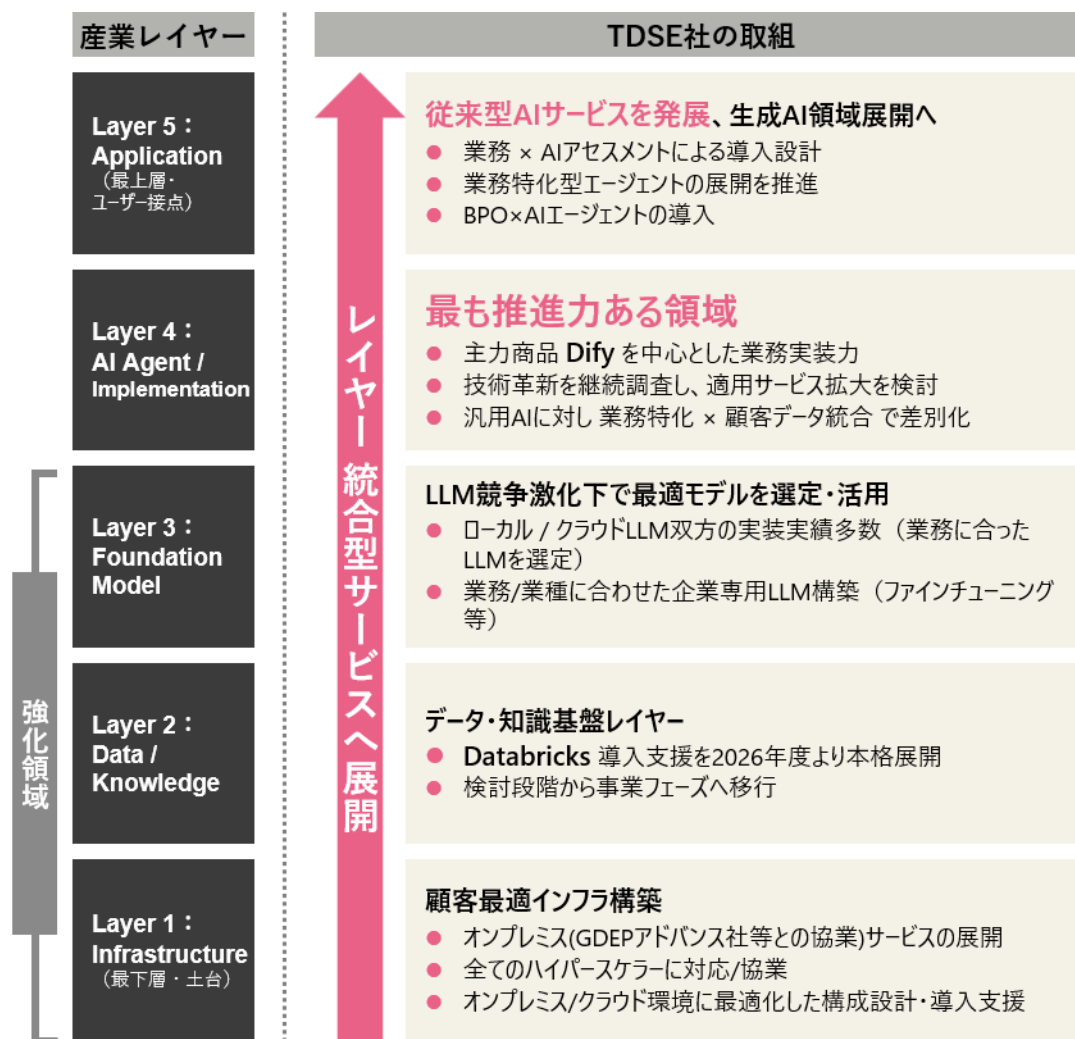
構成	サービス
NVIDIA DGX Spark／互換機	機密情報を扱う組織・企業での AI エージェント導入を想定したオンプレミス基盤。NVIDIA Grace Blackwell アーキテクチャと大容量メモリ、NVIDIA AI ソフトウェアスタックを活用し、オフィス環境で AI エージェント開発、モデル検証、推論環境を構築します。
OSS LLM	業務内容や利用目的に応じて、OpenAI gpt-oss、Gemma、Mistral、Llama 等の OSS LLM を選定。必要に応じて業界データや社内データを用いた追加学習・チューニングにも対応します。
Dify	ノーコード／ローコードで生成 AI アプリ・AI エージェントを構築できる生成 AI プラットフォーム。RAG、チャットボット、業務ワークフロー連携などに対応します。
NVIDIA NeMo Guardrails	LLM の入出力を制御し、安全性・信頼性を高めるための仕組み。誤回答、情報漏洩、意図しない応答などのリスク低減を支援します。

3、今後の展開

当社は、AI エージェント基盤「TDSE_AI FORGE」の提供を通じて、クラウド利用に制約があるながらも生成 AI・エージェント活用を推進したい企業に対し、安全かつ実装しやすいオンプレミス型 AI 基盤を提供してまいります。

先般 6 月に開催された決算説明会にて戦略を説明したように、AI エージェント市場における産業レイヤー構造において、当社はアセスメント・AI エージェント／業務実装レイヤーを中核に、インフラ構築など強化すべき領域を定め、推進していくことを戦略の軸としています。今後も「Dify」を中心とした生成 AI アプリ開発支援、セキュア環境での LLM 活用、情報保護を重視した AI 運用支援を強化し、企業における生成 AI の実業務活用を加速してまいります。

本取組は新中期経営計画「SHIFT2028」が掲げる生成 AI エージェント事業の売上拡大と、ストック型サービス提供を基本とする継続的収益の積み上げの両面に貢献する施策として推進してまいります。



図：AI エージェント産業のレイヤー構造と当社の展開方針（決算説明資料より抜粋）

■ 「Dify」について

「Dify」は、生成 AI を活用した業務アプリケーション・AI エージェントをノーコード／ローコードで構築できるプラットフォームです。企業内ナレッジ活用・業務効率化・意思決定支援など幅広い用途に対応し、エンタープライズ向けの拡張性と管理機能を兼ね備えています。TDSE は国内初の公式販売・開発パートナーとして、Dify の国内普及を主導しています。

新たに始動した Dify 関連取組

- ・生成 AI プラットフォーム『Dify』の新ライセンス「Essential」「Standard」提供開始

[詳細リリース（2026 年 6 月 12 日付・PDF）](#)

- ・生成 AI プラットフォーム『Dify』の特約店募集開始

[詳細リリース（2026 年 6 月 8 日付・PDF）](#)

■ TDSE 株式会社 概要

所在地	東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー27 階
代表者	代表取締役社長 東垣直樹
設立	2013 年 10 月 17 日
資本金	8 億 3,318 万円
役職員数	194 名（2026 年 4 月 1 日現在）
事業内容	データ経営を目指す企業向けに AI 技術を中心とした統合型ソリューションを提供
上場市場	東証グロース（証券コード：7046）
ホームページ	https://www.tdse.jp/

■ 本件に関するお問い合わせ

【ビジネス・サービスに関するお問い合わせ】

担当：本田 E-mail：agent@tdse.jp、問合せフォーム：

<https://www.tdse.jp/contact/service/>

【報道機関・投資家からのお問い合わせ】

E-mail：Investors@tdse.jp

■ 商標について

NVIDIA、NVIDIA DGX Spark、NVIDIA Grace Blackwell、NVIDIA NeMo Guardrails は、NVIDIA Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Dify、Llama、Gemma、Mistral、その他本文に記載の会社名・製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。なお、本文では商標表記（™、®）を省略しています。